

海外林業研究会々員の広場

嫌われても国際協力（8） 振り込め詐欺に気がつけて

炭酸水を買って行ったスーパーで SUPER O2 なる水を見かけ、ついつい買ってしまいました。細かい文字で書かれたラベルの説明には、「ドイツ生まれの技術により、7度の濾過とイオン交換を繰り返し、不純物を取り除き、紫外線とオゾンで殺菌し、酸素を増し加えた水」とのことで、「良い結果を得るためには、このボトル 385 ml を毎日二本飲み続ける必要がある」とのことでした。

ラベルどこにも、「良い結果」とは何なのか書いていなかったの、知り合いのお医者さんに「SUPER O2」の効用を尋ねてみました。お医者さんのいうところでは、『ドイツ生まれの技術うんぬんかんぬん』というのは、インドネシア美人を見ると目にも心にも身体にも良さそうな気がするのとあまり変わらないでしょう。』

さらに、ドイツにいる知人に「SUPER O2 の効果は何ですか？ ドイツの人は飲んでいるのですか？」とメールで尋ねてみました。その答えは、「そのような水は見たことがない。ドイツでは誰も買わないので、輸出したんじゃないかしら。」とのこと。

話変わって、先日とある人が申請者本人には内緒で送ってくれた研究費の申請書のなかで、「国際林業研究センター（CIFOR）との良好な関係協力…」、「アジア森林パートナーシップ（AFP）への貢献が期待される。」等々、CIFOR、AFP があちこちで言及されていました。ただし、その申請をした人と CIFOR との間にある良好な関係にも、その人の AFP への貢献にも心当たりはありませんでした。そのため、「あぁ、CIFOR も AFP も、『ドイツの技術』になったんだ。」と複雑な気持ちになりました。

この原稿が印刷される頃には、私は CIFOR での任を終え日本に帰国しています。帰国に際し、上の二つの話を例にして、「皆さんの知らない人が、CIFOR/Japan プロジェクトもしくは AFP で私に協力していたと CIFOR にコンタクトしてきた時は、その人に返事をする前にまず私に連絡してください。残念ながら世の中には CIFOR や AFP の協力者として推薦できない邪悪な人がいますから。幸いながら、一緒に仕事ができる良い人のほうをたくさん知っています。」、そして「私が CIFOR にとって害になる存在とならないように、連絡を取り合ってください。」と繰り返しています。皆様もお気をつけ下さい。

（藤間 剛）